



▲境内

平和的連帯を図る場として 矢川神社

矢川神社は、奈良時代に建てられたと思われ、同神社は「甲賀の兩宮」として名高く、県指定有形文化財の楼門は、文明14年（1482年）に建てられ、雨乞いの返礼のために大和から寄進されたものと伝わります。

同神社はこの地域の中核となる神社で、近隣とのめぐりがあった時には、社前で当事者が和解したことが元龜2年（1571年）の記録にあり、甲賀郡中惣の集会場として利用されていました。

境内には、楼門のほか、県



▲参道

指定有形文化財の山水図仙人図、市指定文化財の本殿、石造本殿、木造神像など文化財に恵まれています。

甲賀の中世史を ひもとく文化財

国指定史跡とは、歴史の正しい理解のために欠くことができず、学術上価値の高い遺跡のうち、重要なものを国が指定するものです。

甲賀郡中惣遺跡群はこれまでの調査により重要性が明らかになり、国史跡に指定されました。激動の戦国時代を過ごした甲賀武士の実態を未来へ残し伝えるため、地域に根ざした文化財として伝承していきたいものです。

問い合わせ 歴史文化財課 調査管理係 ☎ 86-8026 ☎ 86-8216

今年も高品質

一番茶収穫始まる

市内の茶園に鮮やかな緑の新芽が広がる5月、今年も全国・関西の茶品評会に出品する一番茶の収穫が始まりました。

土山、信楽の茶園では、大勢の摘み手の皆さんにより、手摘み作業が行われました。茶の品質は摘み方にも左右されるとあって、上質な香味を醸し出すため繊細で丁寧な手摘みが行われました。信楽地域では、インドネシアの方々子どもも参加、甲賀の伝統産業を体験しました。

毎年、品評会で高い評価を得ている甲賀のお茶、今年のお茶の品質も上々の出来のようで、好成績が期待されます。



土山

信楽

一番茶を丁寧に摘み取る皆さん